

令和6年度 研究計画（木次中学校）

研究部 2024.4.10

1 研究主題（3か年計画の3年次）※昨年夏に一部改定したため実質2年目です。

人との関わりの中で、自ら学び、考え、表現できる生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びの視点からの工夫を通して～

2 昨年度の成果と課題

これまでの実践を通して、課題に取り組む意欲が向上し、自分の考えを効果的に表現する方法や他の生徒との対話の大切さや学習の意義を認識する生徒が増えつつある。しかし、まだ課題も多く、特に、①質の高い話し合いをするための基礎・基本の定着、②話し合いの必要感や目的意識もてる課題の設定、③深い学びにつながる学び方の指導の工夫と授業展開、に力を入れていきたいと考える。また、多くの生徒がより主体的に興味を持って課題に取り組めるように、ICTの活用にも今後一層力を入れていきたい。

3 研究の概要

（1）主題設定について

本校生徒の実態(課題)として、「授業に対する受動的な側面」「コミュニケーション能力や表現力の不足」がある。そこで、研究3年目となる今年度は、主体的・対話的で深い学びの視点からの工夫として、「課題対応能力の工夫」「深い学びにつながる対話的な学習の工夫」「情報活用能力の工夫」の3点を中心に授業改善に取り組み、人との関わり（学びあい）を通して、自分の考えを持ち、主体的に表現できる生徒を育成したいと考えた。

（2）研究目標

研究主題の「人との関わりの中で、自ら学び、考え、表現できる生徒」を以下のような生徒と捉え、その育成を図る。

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| ・自分の考えや意見を率直に出し合う生徒 | 【深い学びにつながる対話力】 |
| ・異なった考えを受容し、互いの考えを練り上げる生徒 | 【深い学びにつながる対話力】 |
| ・学び合いを通して、自らの課題を解決できる生徒 | 【課題対応能力】 |
| ・必要な情報を効果的に収集、選択、加工し、発信する生徒 | 【情報活用能力】 |

（3）研究仮説

課題対応能力を高める工夫、深い学びにつながる対話的な学習の工夫、情報活用能力を高める工夫について、主体的・対話的で深い学びの視点から授業の工夫や改善をしていけば、人との関わりの中で、自ら学び、考え、表現できる生徒の育成につながるであろう。

（4）研究の内容

①課題対応能力を高める工夫

- ・「聞く・聴く・訊くこと」「自分の考えを持つこと」の指導の工夫
- ・「学習のゴールの姿」をイメージし、ねらい・まとめ・振り返りが整合する授業の展開
- ・生徒がさまざまな課題を発見・分析し、計画を立て解決しようとする課題解決的な学習のマネジメント など

②深い学びにつながる対話的な学習の工夫

- ・活用につながる基礎・基本の定着
- ・各教科の「見方・考え方」を働かせた対話の充実

- ・必要感のある「対話の場」の設定
 - ・学びの成果や自己の変容に気づくための「振り返りシート」の工夫 など
- ③情報活用能力を高める工夫
- ・目的意識、相手意識を重視した多様な表現活動の工夫（プレゼンテーションやレポート等の作成）
 - ・ねらいを達成するための効果的な ICT 機器、ミニボード等の活用
※（お知らせ）新しく 10 枚購入しました。
 - ・意図的・計画的な情報活用能力育成のためのカリキュラム・マネジメントの実施 など
- ④その他
- ・道徳や特活等の話し合いにおいても、「さくらタイム」で培った聞き方や関わり方を活用させる。

5 評価の方法

各教科、道徳、特活、総合での実践や授業研究（一人一授業、訪問指導等）を通して検証する。

※全員が研究内容の視点に沿った授業を行い、学年部を単位として協議を行う。

【一人一授業について】

- 時期 5月下旬～12月 ※放課後の協議のため、基本的に月曜日（道徳でも可）
 - 授業者 別紙の候補日に、各学年1人ずつ ※他学級が自習にならないようにする。
 - 参観者 管理職、学年部、教科教員、研究主任等 ※参観者は授業参観記録表を授業者に渡す。
 - 指導演 略案（密案も可）を全員に配付する。
 - 研究協議 放課後学年部ごとに行う。学年の研究部員が運営する。
 - 提出物 学習指導演、実践レポート、を PC フォルダに提出する。
- ※R6年度>5研究>10研究>0校内研究